

「猫をかぶる」ということわざは、「本性を隠す」例えとして使われます。実際、猫はとても用心深く、知らない人の前では本音を隠すことがあります。家で具合が悪そうだったので病院に連れていくと元気、ということも少なくありません。

だからこそ、家での状態をよく観察することが重要です。

寒い時期に注意したいのが尿石症や膀胱炎、腎臓病などの泌尿器系の病気です。猫はエジプトの砂漠地域が原産で、あまり水を飲まなくても生きていけるよう進化しました。腎臓は血液を濾過して老廃物を排出しますが、この際

あんしんペットライフ

38

猫に泌尿器疾患が多いわけ

に水分を再吸収して体内に戻し、尿を濃縮する機能を持っています。猫はこの機能が発達しているため、比較的、飲水を必要としないと考えられています。

しかし、腎臓にダメージを受けると水分の再吸収がうまくできず、脱水を起こしやすくなります。水飲み場の数を増やす▷場所を暖かくする▷水を人肌に温める一などの工夫をするといいでしょう。さらに脱水が進むと点滴での水分補給が必要となります。

また、猫の体は尿道（膀胱から尿道口までの間）が細

く、尿石などが詰まりやすい構造です。尿道が詰まると腎臓にも負荷がかかり、一度尿石のトラブルがあった猫は腎臓病にもなりやすくなります。尿石は体質にもよりますが、食餌で予防できます。フードを選ぶ際には尿石症にも配慮したものを選ぶといいでしょう。

早期発見のポイントは飲水量と尿量です。水を飲む量が増えた、尿量が増えた、と感じた際には早めに動物病院に相談しましょう。

（アニコム損保

獣医師 井上舞）